

解答

1. 次の記述のうち、文章の内容に即したのものには○を、そうでないものには×をかつこ内に書き込みなさい。

- （○）試合後の記者会見で、サッカー選手は決まり文句だけで話す。
- （×）サッカー選手は政治の話をするとき、紋切り型の表現しか使わない。
- （×）記者会見では、スポーツ選手が自分自身を明確に表現すればするほど問題は少なくなる。
- （○）今日では、サッカー選手はマスコミを使わなくても自分の考えをSNSで伝えることができる。

2. 文中の（ア）～（オ）に入れるのもっとも適した語句を、(a)～(d)からそれぞれ選び、○で囲みなさい。

（ア）	(a) alors	(b) même	(c) si	(d) toutefois
（イ）	(a) que	(b) lesquels	(c) dès lors	(d) dont
（ウ）	(a) après	(b) que	(c) donc	(d) mais
（エ）	(a) face	(b) à l'égard	(c) à l'encontre	(d) contre
（オ）	(a) Loin s'en faut	(b) En revanche	(c) Ceci explique	(d) Grâce à eux

3. 文中で□に囲まれている単語は何を指していますか。文中から抜き出して書きなさい。

(a) celui (1.8) : le sport

(b) eux (1.27) : des médias de masse

(c) elle (1.32) : une contreperformance

4. 文中の下線部を和訳しなさい。(1.34-37)

（訳例）

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【B】会話の含意（会話の推意、conversational implicature）について知るところを、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

発話が字義通りの意味以外に言外に持つ意味を含意といい、そのうちグライスによって提案された協調の原則および会話の格率によって生み出されるものを会話の含意という。協調の原則とは、「いま行われている会話の方向や目的に沿う形で会話に参加せよ」というものであり、その下位原則である会話の格率は、「関係のないことを言うな」という関連性の格率、「信じていないことや証拠のないことを言うな」という質の格率、「必要な情報を過不足なく伝えよ」という量の格率、「不明瞭な表現、曖昧な表現、冗長な表現は使わず、順序よく話せ」という様態の格率の4つの格率からなる。会話の参加者は通常、協調の原則・会話の格率に従い、自分以外の参加者も従っていると考えられる。

次の例を考えてみよう。

(1) A : Did you eat all the strawberries?

B : I ate some.

Bの発話の会話の含意：B didn't eat all the strawberries.

もしもBがすべてのイチゴを食べたのに、Aの質問に対して“I ate some”と答えたとしても、Bがイチゴをいくつか食べたことは事実なので、Bは嘘をついたことにはならない。しかし、その場合、求められているよりも少ない量の情報しかAに与えていないので、Bは量の格率に違反していることになる。そのため、Bが量の格率に従っていると考えているAは、「Bはイチゴをすべて食べてはいない」と判断するのである。

次に(2)の例を考えてみよう。

(2) A : Is Tom dating anyone these days?

B : Well, he goes to San Diego every weekend.

Bの発話の会話の含意：Tom is dating someone in San Diego.

Bは、トムが最近誰かと付き合っているのかどうか聞かれて、彼が毎週末サンディエゴに行っていると答えているので、表面的には、Aの発話と関係のないことを言っていて、関連性の格率に違反しているように思える。しかし、Aは、Bが関連性の格率に従って自分の発話に関係のあることを言っていると考え、「トムはサンディエゴの誰かと付き合っている」という含意があると判断するのである。

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【解答欄】

会話の格率には、一般的会話の含意（generalized conversational implicature）と特殊化された会話の含意（particularized conversational implicature）の2種類がある。このうち一般的会話の含意は、コンテキストに関係なく一般的に生じる会話の含意であり、(1)がその例である。一方、特殊化された会話の含意とは、特定のコンテキストでのみ生じる会話の含意のことであり、(2)によって例示される。

会話の含意の特徴の1つに、取り消すことができるという点がある。たとえば、次の(3b)では、(3a)が持つ“Not all of the students were late”という含意が取り消されている。

- (3) a. Some of the students were late.
b. Some, in fact all, of the students were late.

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【D】日本語の受動文について知るところを、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

日本語の受動文は、直接受動文、間接受動文、所有者受動文の3種類に分けることができる。

このうち、直接受動文は、対応する能動文の目的語が主語となっている受動文である。次の(1a)は直接受動文の例であり、対応する能動文(1b)の目的語である「花子」が主語になっている。

- (1) a. 花子が太郎に叩かれた。
b. 太郎が花子を叩いた。

次に、間接受動文は、対応する能動文が存在しない受動文であり、迷惑の受け身などとも呼ばれる。(2a, b)がその例であり、(3)に示すようにどちらも対応する能動文が存在しない。

- (2) a. 太郎が雨に降られた。
b. 太郎が花子に一晩中ギターを弾かれた。
(3) a. *雨が太郎を降った。
b. *花子が一晩中太郎をギターを弾いた。

上の例からもわかるように、このタイプの受動文では、他動詞だけでなく((2b))、自動詞も使われる((2a))。

最後に、所有者受動文は、持ち主の受身とも呼ばれ、対応する能動文が存在するという点では直接受動文と似ているが、その目的語全体が主語となっているのではなく、目的語の所有者（「～の」）が主語になっている受動文である。(4a)はこのタイプの受動文の例で、対応する能動文である(4b)の目的語（「太郎の車」）の所有者（「太郎」）が主語になっている。

- (4) a. 太郎が花子に車を壊された。
b. 花子が太郎の車を壊した。

直接受動文と所有者受動文には、対応する能動文が存在するという点以外にも、共通点が存在する。たとえば、(5)によって例示されるように、これらの2つのタイプの受動文では、間接受動文と違って、受身の助動詞「(ら)れる」が付加されている動詞((5a)、(5b, c)ではそれぞれ「降る」、「殺す」)の意味上の主語((5a)、(5b, c)ではそれぞれ「雨」、

試験科目：（専門科目 言語学・必答） 試験時間：（120分）

【解答欄】

「花子」を「に」ではなく「によって」で標示することが可能である。

- (5) a. *太郎が雨によって降られた。（間接受動文）
b. 太郎が花子によって殺された。（直接受動文）
c. 太郎が花子によって娘を殺された。（所有者受動文）

また、直接受動文と所有者受動文では、間接受動文と違って、「に」の句が「自分」の先行詞になることができない。したがって、(6a)では「自分」＝「太郎」の解釈とともに「自分」＝「花子」の解釈も可能だが、(6b, c)では、前者の解釈のみが可能であり、後者の解釈は得られない。

- (6) a. 太郎が花子に自分の部屋で泣かれた。（間接受動文）
b. 太郎が花子に自分の部屋で蹴られた。（直接受動文）
c. 太郎が花子に自分の部屋で背中を蹴られた。（所有者受動文）

試験科目：（専門科目 言語学・必答） 試験時間：（120分）

【C】 次の2つの問題に答えなさい：

1. 「異化(dissimilation)」という現象について具体例を挙げて説明しなさい。
2. 日本語学習者による特殊拍の知覚実験を行うとしたら、どのような点に気をつけて実験計画を立案したらよいであろうか、なるべく詳しく論じなさい。

【解答欄】

1. 単語中の類似した分節音が、類似しない方向に変化する現象である。例えば英語の **purple** は元をたどれば **purpre** であったが、/r/音の繰り返しを避ける異化が起きたとされる。
2.
 - a. 録音素材として撥音，長音，促音を持つ単語と，それらの最小対となる単語を，なるべく全ての子音および母音環境をカバーする語群(完備-華美，カード-角，勝った-過多...)を用意し，ランダム順に提示されるようにする
 - b. 静謐な環境で単語を一つずつ発音してもらいデジタル録音する
 - c. 音響分析ソフトウェアを用いて分節化(segmentation)を行い，各単語の母音および子音区間を定める
 - d. 例えば「完備(kambi)」における[m]の区間を10msずつ縮め，「華美(kabi)」になるような刺激音声連続体を作成する。長音，促音においても，適切な区間を10msずつ縮めた刺激音声群を作成する
 - e. 一つの刺激音声に対して，例えば[完備]－[華美]の2つを画面に提示し，一つを選択させ，回答を記録する実験プログラムを作成する
 - f. 日本語学習経験の多寡によって実験参加者をいくつか(たとえば初級・中級・上級)のグループにわけ
 - g. 参加者グループごとに片方の選択肢に対する回答率をプロットし，それらの中の統計的な差異を検討する

言語科学 研究科 言語学 専攻（博士前期）

試験科目：（ 専門科目 言語学・選択 ） 試験時間：（ 120分 ）

【B】 次の2つの問題に答えなさい：

1. iambic/trochaic foot という概念を具体例を挙げて説明しなさい。
2. 音の高さを Hertz で表すのと semitone で表すのでは、それぞれどのような特徴があるか説明しなさい。

【解答欄】

1. 英語のような強勢言語において、2音節の脚韻(foot)の弱強パターンを iambic, 強弱パターンを trochaic と呼ぶ。Iambic の具体例は”alone”, trochaic の具体例は”lonely”である。
2. Hertz(Hz)は1秒間の振動数を表す物理的な単位である。たとえば440Hzの音と220Hzの音の差は440Hzと660Hzの音の差となんら変わらない220Hzである。しかし音楽的な音程の幅としては両者は全くことなる。1オクターブは振動数において倍になることであるため、440Hzを基準とした時の1オクターブ下は220Hzとなる。半音(semitone)は1オクターブを12等分した1つ分であり、したがって440Hzの220Hz下までには半音が12個入るが、440Hzから660Hzまでの間には半音7.019個しか入らない。

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【B】会話の含意（会話の推意、conversational implicature）について知るところを、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

発話が字義通りの意味以外に言外に持つ意味を含意といい、そのうちグライスによって提案された協調の原則および会話の格率によって生み出されるものを会話の含意という。協調の原則とは、「いま行われている会話の方向や目的に沿う形で会話に参加せよ」というものであり、その下位原則である会話の格率は、「関係のないことを言うな」という関連性の格率、「信じていないことや証拠のないことを言うな」という質の格率、「必要な情報を過不足なく伝えよ」という量の格率、「不明瞭な表現、曖昧な表現、冗長な表現は使わず、順序よく話せ」という様態の格率の4つの格率からなる。会話の参加者は通常、協調の原則・会話の格率に従い、自分以外の参加者も従っていると考えられる。

次の例を考えてみよう。

(1) A : Did you eat all the strawberries?

B : I ate some.

Bの発話の会話の含意：B didn't eat all the strawberries.

もしもBがすべてのイチゴを食べたのに、Aの質問に対して“I ate some”と答えたとしても、Bがイチゴをいくつか食べたことは事実なので、Bは嘘をついたことにはならない。しかし、その場合、求められているよりも少ない量の情報しかAに与えていないので、Bは量の格率に違反していることになる。そのため、Bが量の格率に従っていると考えているAは、「Bはイチゴをすべて食べてはいない」と判断するのである。

次に(2)の例を考えてみよう。

(2) A : Is Tom dating anyone these days?

B : Well, he goes to San Diego every weekend.

Bの発話の会話の含意：Tom is dating someone in San Diego.

Bは、トムが最近誰かと付き合っているのかどうか聞かれて、彼が毎週末サンディエゴに行っていると答えているので、表面的には、Aの発話と関係のないことを言っていて、関連性の格率に違反しているように思える。しかし、Aは、Bが関連性の格率に従って自分の発話に関係のあることを言っていると考え、「トムはサンディエゴの誰かと付き合っている」という含意があると判断するのである。

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【解答欄】

会話の格率には、一般的会話の含意（generalized conversational implicature）と特殊化された会話の含意（particularized conversational implicature）の2種類がある。このうち一般的会話の含意は、コンテキストに関係なく一般的に生じる会話の含意であり、(1)がその例である。一方、特殊化された会話の含意とは、特定のコンテキストでのみ生じる会話の含意のことであり、(2)によって例示される。

会話の含意の特徴の1つに、取り消すことができるという点がある。たとえば、次の(3b)では、(3a)が持つ“Not all of the students were late”という含意が取り消されている。

- (3) a. Some of the students were late.
b. Some, in fact all, of the students were late.

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【D】日本語の受動文について知るところを、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【解答欄】

日本語の受動文は、直接受動文、間接受動文、所有者受動文の3種類に分けることができる。

このうち、直接受動文は、対応する能動文の目的語が主語となっている受動文である。次の(1a)は直接受動文の例であり、対応する能動文(1b)の目的語である「花子」が主語になっている。

- (1) a. 花子が太郎に叩かれた。
b. 太郎が花子を叩いた。

次に、間接受動文は、対応する能動文が存在しない受動文であり、迷惑の受け身などとも呼ばれる。(2a, b)がその例であり、(3)に示すようにどちらも対応する能動文が存在しない。

- (2) a. 太郎が雨に降られた。
b. 太郎が花子に一晩中ギターを弾かれた。
(3) a. *雨が太郎を降った。
b. *花子が一晩中太郎をギターを弾いた。

上の例からもわかるように、このタイプの受動文では、他動詞だけでなく((2b))、自動詞も使われる((2a))。

最後に、所有者受動文は、持ち主の受身とも呼ばれ、対応する能動文が存在するという点では直接受動文と似ているが、その目的語全体が主語となっているのではなく、目的語の所有者（「～の」）が主語になっている受動文である。(4a)はこのタイプの受動文の例で、対応する能動文である(4b)の目的語（「太郎の車」）の所有者（「太郎」）が主語になっている。

- (4) a. 太郎が花子に車を壊された。
b. 花子が太郎の車を壊した。

直接受動文と所有者受動文には、対応する能動文が存在するという点以外にも、共通点が存在する。たとえば、(5)によって例示されるように、これらの2つのタイプの受動文では、間接受動文と違って、受身の助動詞「(ら)れる」が付加されている動詞((5a)、(5b, c)ではそれぞれ「降る」、「殺す」)の意味上の主語((5a)、(5b, c)ではそれぞれ「雨」、

試験科目：（ 専門科目 言語学・必答 ） 試験時間：（ 120分 ）

【解答欄】

「花子」) を「に」ではなく「によって」で標示することが可能である。

- (5) a. *太郎が雨によって降られた。（間接受動文）
b. 太郎が花子によって殺された。（直接受動文）
c. 太郎が花子によって娘を殺された。（所有者受動文）

また、直接受動文と所有者受動文では、間接受動文と違って、「に」の句が「自分」の先行詞になることができない。したがって、(6a)では「自分」＝「太郎」の解釈とともに「自分」＝「花子」の解釈も可能だが、(6b, c)では、前者の解釈のみが可能であり、後者の解釈は得られない。

- (6) a. 太郎が花子に自分の部屋で泣かれた。（間接受動文）
b. 太郎が花子に自分の部屋で蹴られた。（直接受動文）
c. 太郎が花子に自分の部屋で背中を蹴られた。（所有者受動文）